

東村山稲門会ニュース 第40号

H12年7月1日 発行
発行責任者、大西 幸夫
編集局 塩見 田口
井垣 伊藤
小亀 輝雄

事務局、042-394-6951

会からのお知らせ

◎ 納涼バーベキュー会のお知らせ

昨年も開催され大変好評でしたので、今年も下記の通り
当間さんご家族のご好意に甘えて、当間家の広い庭をお借
りして行うことになりました。

ご家族の方もお誘いしてご参加ください。

日時：7月29日（土）4時～7時（小雨決行）

場所：当間 昭治 宅（右図参照）

久米川町3-14-4 ☎391-6023

会費：男性：2000円、女性・中学生以下：1000円



準備の都合上、参加希望者は事務局（☎395-6951小亀）までご連絡下さい。
また当日は出来るだけ参加者で準備をしたいと思いますので、お手伝い頂ける方（午
後1時現地集合）は、参加ご連絡の際お申し出ください、皆で協力して楽しい会にしま
しょう。

◎ 定例役員会

日時：8月5日（土） 14.00～14.30 発送準備（有志による）
14.30～16.30 役員会

場所：東村山市民センター別館、第4会議室

なお、一般会員の方も時間の都合のつく方は気楽にご参加下さい。

◎ 会員消息

新入会員紹介

鈴木 義信さん（S35法） 田無市緑町1-8-3-511
☎0424-67-0780

早稲田大学125周年事業募金について

先月号でお知らせしましたように、早稲田大学では建学の理念「学問独立」「学問
の活用」「模範国民の造就」を実現するため創立125周年の記念事業として、イン
テリジェント教育研究棟2棟の建設、新学生会館の建設、大隈講堂の多機能型文化ホ
ールへの再生を実施するための資金調達の募金活動を展開しています。

当稲門会では昨年の総会で来年度から2007年までの期間限定で会費3500円
に寄付分1500円をプラスして徴収させて頂き寄付することに決めさせて頂きまし
た、これを毎年6月頃、一括して寄付する予定ですが、大学ではこちらからの名簿リ
ストにより個人別に登録管理することになっています。よろしくご理解のうえご協力
・ご支援をお願いいたします。

ゴルフ同好会

○「夏休みゴルフ」を8月2日(水)やりましょう!

今は梅雨の真っ最中、うっとうしい毎日ですがまもなく暑い日差しがカットと照りつける真夏がやってきます。昨年は猛暑耐久ゴルフと物々しいタイトルでご案内しましたが、今年は「夏休みゴルフ」のタイトルで企画したいと思います。

8月2日(水)、コースは(A)日本女子オープンで深いラフと難しいグリーンに選手が悪戦苦闘した**飯能ゴルフクラブ**、(B)昨年夏も赤富士を眺めながらプレーした**富士カントリークラブ**のどちらかです。

参加申込みは、7月16日(日)迄に世話役の井垣(Tel&Fax 396-3100)まで、ご連絡下さい。お待ちしております。

○やりましたホールイン「カー」!? 鴉の頭直撃哀れ昇天

年月日	平成12年6月20日(火)
コース	南総カントリークラブ(千葉県市原市)
ホール	西コース アウト3番 566ヤード 第2打
使用クラブ	5番アイアン



「アッ当たった!」フェアウェイ中央でキャディさんが両手を握りしめて悲痛な叫びをあげた。同伴競技者2人も前方を凝視したまま突っ立っている。「どうしたの?」と爪先下がりのラフから右への押し出しショットを警戒しすぎて逆に左へひっかけ気味の低い弾道で視界から消えていったロングホール第2打を悔やみながら、ボールの行った方向の見えるところまで出てきた私は100ヤード程先の光景を見て凍り付いてしまった。

ラフとフェアウェイの境目近くで鴉が一羽バタバタと羽ばたいている。真ん中に2本黒い脚が出ているので仰向けになってもがいているのだと理解できるまでになお時間を要した。

私の打ったボールはその鴉から3メートルくらい離れた短いラフに止まっている。「ノーバウンドで直接頭に当たったのよ。危ないって言おうと思ったときにこちらを振り向くような感じでそのときに頭に当たってしまったの。」

4~5羽いた鴉の仲間達も落ち着かない様子でまわりをうろうろ。

1羽が心配そうに「どうした。大丈夫か?」とでも言うように寄り添って側を離れない。彼らも梅雨の中休みの陽気の中でのんびりと10時のティタイムを楽しんでいたところだったのだろう。

件の鴉は、またバタバタと羽ばたきを繰り返していたが、やがて力尽きたのかおとなしくなってしまった。側にいた仲間もあきらめたように離れた。人間に置き換えれば、ボウリングの球が猛スピードで頭を直撃したようなものである。「逆襲してくるかも知れないから気を付けた方がいいよ。」同伴競技者の注意を聞きながら、立ち去りかねている鴉の群を横目に第3打のスタンスを取ろうとしたとき、最後の力を振り絞って二三度ばたつき両足を突き上げた形で絶命した。



5 番ホールのティショットの時、一羽の鴉が我々のカートに止まり盛んに何かを探すという嘘のようなおまけまで付いて、私の記念すべき？ホールインカーは幕を閉じたのである。

(井垣 記)

テニス同好会



幹事 当間 TEL 391-6023

6月の例会(6/11)は、梅雨入りの頃特有のうっとうしい天気の為、残念ながら中止となりました。

再度同じ会場を下記にて予約しました。

多分梅雨も明け、真夏の太陽が期待できる頃かと思えます。思いきり汗をかき、その後の 昼飯(+アルコール少々)を楽しみませんか。

多数のご参加をお待ちしています。

記

日時 7月16日(日) 午前11時～午後1時
場所 市立第2中学校テニスコート(3面)
久米川町2-4-1
TEL 391-9112

etc 麻雀同好会

本年第2回の麻雀大会は去る6月18日(日)父の日に、初参加の藤田恭司氏(昭32政経)、稲門会新会員の鈴木義信氏(昭35法)を迎え四卓で盛大におこなわれました。優勝は久方ぶりに三宅氏、準優勝谷城、3位田口、4位当間の各氏でした。

今回役満賞の発表をしましたが、残念ながら出ませんでした。

今回は特に小亀、木谷、山下氏に多くの副賞寄贈をいただき有難うございました。いつもの如く表彰式の後その場で懇親会にうつり、他同好会の連絡、近況情報交換と賑やかな楽しいひとときを過ごしました。

なを、次回本年第三回大会は9月10日(日)ときまりました。

今回はまた、盛大に賑やかにおこないたいと思いますので会員各位、多数のご参加に期待いたします。

追記：父の日にやるとはけしからんと言われ参加した仲間がいたが、我が同好の雀士宅にもまともな家庭があると思ひほった次第。

(小野、田口)

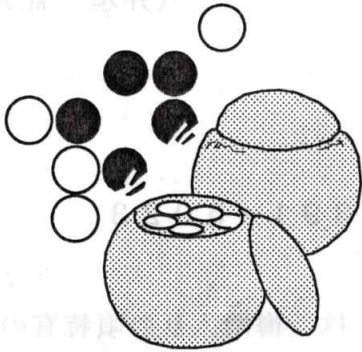
囲碁・将棋の会

幹事：鈴木 国夫

TEL 042-394-2052

：江藤 昌明

TEL 042-391-4076



第6回囲碁・将棋の会を6月24日(土) 1時から東村山市民センター第5会議室で開催し、雨天にも拘わらず9名の参加者があり熱戦を展開しました。

対局に先立って、次回会合を大会方式で行うことにし、以下の通り協議しました。

○各4局ずつ対局して優勝者を決める

○ハンディは聖目(9子)までとし、それを超えたときは1段級差ごとに5目の逆コミとする。

○優勝者には持ち回りの優勝盃を授与する(目下、大西会長にお願いをしています。

○有級者は1回、有段者は連続3回優勝したときは、昇級・昇段する。

次回第7回会合は下記の通りです。

記

日時：8月26日(土) 午後1時～5時

場所：東村山市民センター第6会議室



園芸の会



今年3回目の例会を下記の日程で催しますのでご案内いたします。

日時：平成12年8月20日(日) 14時～16時

場所：東村山市民センター第6会議室

今回は去る2月14日講師の藤澤博恭氏(昭29政経)からお分け頂きました「サギ草」を見事咲かせたかどうか苦心談等楽しい一時を過ごしたいと思います。多数ご参加下さい。

なお草花等の種苗の余分がありましたらお持ち下さいませ。

幹事 三宅 ☎ 394-5298

土橋 ☎ 393-5708

編集局からのお知らせ

◎ ニュース編集局は現在、表記（１頁上段右側）の４名で運営されております。

やや多いのではと気にされる向きもあると思われますがかねてより、ニュースの編集に最近急速に進歩し汎用化されつつあるＩ．Ｔ．（情報テクニク）を採用してはとの声が役員会内部などで昂まり、従来の２名に新たに２名の方に加わって戴き紙面の刷新に着手しました。

既にお気づきでしょうが一部紙面がイラストの挿入や、豊富な文字修飾方法の採用および自由な割付けによって大へん見易くなりました。

しかし、現在は過渡期であり編集のすべてをＩ．Ｔ．化するにはまだ時間を要すると思われます。

ニュースの発行が各同好会の発展にプラスしたことはその実績によって明らかでありますため、同好会関係の原稿は可能ならばｅメールで伊藤さんに送って戴き、パソコン導入以前の際は従来どおりでお願いします。

この件についてのお問い合わせは 塩 見 （３９５－３７１８）まで。

編集後記

○ ５月の園芸クラブで自作の花苗の交換会があり、２月の会に欠席した筆者は会員の方が育てた苗を戴くだけとなり数を最小限にとどめましたが、その苗がすくすくと伸びて庭が賑やかとなりました。次回は必ず苗を用意します。

○ ６月のマージャン大会の観戦記を書く予定が、滅多に無い旧友からの呼出し電話で断り切れず失礼しました。最近老人同志の連絡が多く、体調がすぐれないとすぐに電話をする悪い癖が流行しつつあります。

○ 衆院選挙が終わりホッとしました。鷹の道は救急車・消防車のサイレンに選挙広報車のマイク音が加わり、五中と東村山高校の授業時間が過ぎると大へんでした。

思い出の地（7）

塩見之一

七、牛込市ケ谷から三方ヶ原へ
前号で紹介したS君との昭和十八年秋の日
光白根登山は、白根の頂上から菅沼・丸沼に
到る下山道が夏の落雷による無数の倒木に覆
われ、くぐるか越すかせねばならないために
難行して遭難しかかったことを除き無事に終
った。懸案のS君の伝言をK嬢に伝える件は、
K嬢には婚約者が居ることと相手が海軍士官
でT教授の研究室を度々訪れる偉丈夫であり、
教授にとつてK嬢は大切な預かりものである
ことが判りS君の希望は希望として伝えられ
たにとどまった。
昭和十九年春以降東京の上空を飛行機雲を
曳きながら敵の大型機が飛ぶようになった。
空襲警報の後、爆音が聞こえず単機で高々度
を見たことも無い直線の雲を曳きながらほ
北から南に飛ぶさまは、爆弾を落とすわけで
も無く不気味であった。
後で判ったことであるが米軍が関東南部広域
の軍事目標を写真撮影していた模様で、その
年の秋から開始された夜間爆撃の準備をして
いたと思われる。
昭和十九年から徴兵年齢が一年繰り下げら
れ私はその対象者のひとりとなった。
兵員の損耗を発表するなどは当時は考えられ

ないことでもそれを口にすることなく牛込
筆町の当時の牛込区役所で黙々と検査を受
けた。肋膜炎で肺の底部に傷のある私は「第
二種合格」と徴兵官に言われ復唱させられ
た。町の古老によれば海軍は甲種のみで二
者は陸軍だとのことでいはずれにしても当
者は「二種合格」の徴兵検査は確率の高い「死」への
付いた若者は少なくたえ死の予感があつて
も口にすることは禁句となつていた。
牛込仲之小学校の同級生と連絡をとり合つた
が、何時入営通知が来てもよいように長期に
住所を離れることは禁止、戸籍が愛知県熱
田神宮近くにあるため入営先は中部地方に限
られるなどの知識しか得られなかった。
昭和十九年の初秋、東京の銀座が米機の空
襲を受けた。爆音が聞こえず爆弾の着弾音の
みが間欠的に聞こえ、照空灯が敵影を捉え得
なかつたところをみると少数機による高々度
爆撃であつたようである。牛込の東南の空が赤々
と燃え上がった。高射砲の應射はマバラで都
会では、B25の東京初空襲の際に乱射して
多数の家屋に被害を与えた不名誉な教訓を生
かしたものと思われた。
部一三〇部隊から十二月一日入営の通知が
私の手許に届いた。
（この項続く）